

突然、目の前真っ暗／視野狭く／物が二重に

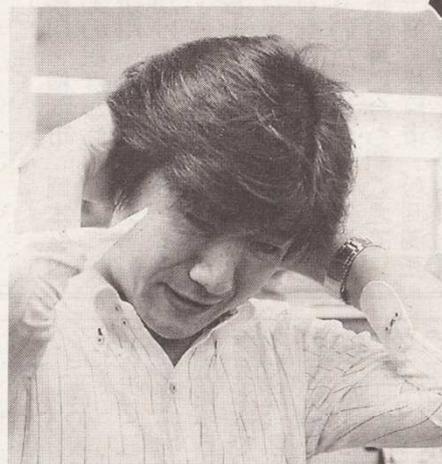
高血圧と糖尿病を患う加藤満さん（仮名 68歳）は昨年8月初旬、食事中に異変を感じた。右手の力が抜け、箸を落としてしまった。慌てて立ち上がろうとしたところ右足にも力が入らず、よろけた。熱中症を疑い、水を飲み、じっとしていたら症状が消えた。そのまま放っておいたが、3日後に救急車で運ばれた。脳梗塞だった。

「これは脳梗塞が起きる前に時々みられる『一過性脳虚血発作』（TIA）の典型です。それつが回らない、言葉が出ない、人の話し言葉が理解できない、片側が麻痺（まひ）したり、しびれたりするなどの症状がこれに当たります。ところが、その多くは数分で症状がなくなってしまう。そのため『疲れのせいだろう』と軽く考え、TIAに気付かないのです」

こう言うのは国家公務員共済組合連合会「立川病院」脳神経外科の福永篤志医長だ。

問題は、この病気を放っておくと、15〜20%の人が

夏に多い脳梗塞



一過性脳虚血発作の軽視は禁物

目

要注意!

前触れは

3カ月以内に脳梗塞を発症するということ。そのうち半数は、TIAを起こしてから数日のうちに脳梗塞に。特に48時間以内は危ないといわれる。

TIAの後に脳梗塞を患う危険度は、人によって異なるが、冒頭で紹介した加藤さんのTIAは、既に脳の奥深くの血管が一時的に詰まっている危険な状態。いきなり本格的な脳梗塞が起こっても全く不思議ではない。自ら予兆をキャッチする方法を福永医長に聞いた。

「目の異常に気を付けることです。TIAは大きく分けて二つの原因で起こります。動脈硬化と心臓の病

気です。動脈硬化が原因で起こるTIAのうち半数近くは、頸（けい）動脈のプラークが脳の動脈に飛んで一時的な脳虚血を起こします。その多くは、頭蓋の中で内頸動脈から分岐する目の動脈をふさぎます。ですから、突然シャッターが下りたように目の前が真っ暗になったり、視野が狭くなったり、物が二重に見えたりした場合は、TIAを疑い、ためらわず病院で診てもらふ必要があります」

ただ、「目に異常がないから安心」とは必ずしもいえない。中には、どこで診てもらえばいいか分からないという人もいるだろう。望ましいのは脳神経外科や神経内科、脳卒中科のある病院だ。

TIAとは別の原因で起こる症状もあるが、脳梗塞に襲われた後で「あのとき、病院に行っておけばよかった」と後悔しても遅過ぎる。疑問があれば迷うことなく、病院に行くべきだ。

記事提供…日刊ゲンダイ

リスク予測方法「ABCD²」スコア

脳梗塞は脳の血管が詰まり、脳細胞が壊死（えし）する病気だ。推定患者数は90万人以上。夏に発症することが多く、年間約7万人が死亡する。命が助かったとしても深刻な後遺症を残す。突然発症するイメージがある病気だが、前触れがある場合も。何をキャッチすれば、命を長らえることができるのか。

TIAの後、早期に脳梗塞を起こすリスクを予測する方法がある。「ABCD²」スコアだ。これはTIAが起きた時点での「年齢」や「血圧」など、【表】の5項目をチェック。合計が3〜4点以上になると、本格的な脳梗塞リスクが高いといわれている。この段階で飲み薬やカテーテルによる血管内治療、外科手術など、必要な治療を受ければ、命を脅かす脳梗塞を回避できるという。

「ABCD ² 」スコア		
年齢	60歳以上	1点
血圧	140/90mmHg以上	1点
症状	体の片側麻痺	2点
	麻痺なしのろれつ障害	1点
症状の持続時間	60分以上	2点
	10〜59分	1点
糖尿病	あり	1点